

中川眞須良 ミナミ気圧

中川眞須良

ミナミ気圧

撮影 大阪・道頓堀、戎橋、難波にて







## とりとめのない話

### 《この曲に想う》


七里ガ浜の哀歌

またこの曲を思い出す時期がやってきた。  
いつの頃からか、本来の曲名よりもサブタイトル的な「真白き富士の嶺」のほうが一般的になり、本来の意味、内容が一部忘れられてゆくようで少しさびしい。  
誰もがよく耳にするこの曲、作られ今日まで永く歌い継がれるまでの経緯を簡単に紹介する・・・

明治 43 年 1 月 23 日、鎌倉逗子開成中学ボート部の練習艇が悪天候のため七里ガ浜（鎌倉）で沈み、乗っていた生徒 12 人全員が死亡。

同年 2 月 6 日同校での大法要の席上、鎌倉女学校の生徒たちの合唱で初めて歌われた追悼歌だ。  
もともと讃美歌としてアメリカ人牧師ガートンが作曲したこの曲に、地元に住んでいた鎌倉女学校の国語教師、三角錫子が当時の日本人作詞家、大和田健樹の詩、「夢の外」の一部の言葉を参考にして、急遽この日のために作詞されたものだ。

この哀歌、後の大正 5 年 6 月、「七里ガ浜の哀歌」として単行本となり楽譜とともに発行されたのを機に爆発的にヒットした。

大法要の席、初めて歌われ世に出たこの曲、6 番までの全歌詞と楽譜の音符の一つに付されている記号  (フェルマータ) 更に長調を意識して歌えば心のどこからか少し熱いものがこみあげてくるかもしれません。

